

右白雉、享和三年亥三月、御城へ來候由、

〔宮川舍漫筆四〕白雉

同保天八西年の事なりしが、駿州にて白雉を捕候事、いと目出度祥瑞なりとの噂あり、  
公儀江さし上候事

岸本何某御代官所

駿州北安東村にて、白雉を差上候者江、御手當之儀申上候書付、

書面願之通爲御手當

金壹兩被下置候旨被仰渡、

奉承知候、

五月廿八日  
酉

岸本某御代官所駿州安倍郡北安東村百姓源太郎義同州庵原郡山中にて捕候白雉差上御留  
に相成候に付可相成も御座候は、相應之御手當被下候様仕度旨、十輔相願候旨相糺候處、前  
前も右體之品指上候者江は、御手當被下置候旨源太郎江も相應之御手當被下置候様仕度奉  
存候、以上、

五月○下  
酉

〔嘉永明治年間錄九〕万延元年十一月十九日、織田兵部少輔白雉子ヲ幕府ニ獻ズ、

私領分、羽州天童陣屋前城山と唱へ又は鶴の舞候形に似寄申候逆、舞鶴山とも申來候場所にて、  
當申の五月頃、卵生と相見え候、白雉子雛鳥八月中相見候に付、取獲候様申付、去九月十日手に入、  
追々飼付健に生立申候、然る處白雉子の義は古來稀成靈鳥の由傳聞、此節當表へ取寄相成候處、  
此度御本丸へ御移徒も被爲濟、誠に以て恐悅折柄に付、此上の吉祥にも相成候様何卒獻上仕度